

作業学習の指導事例

1 作業学習の意義と目標

特殊学級（知的障害）の教育においては、作業学習や技術・家庭科の指導を行ったとしても、それが、直ちに将来の進路に直結するものではなく、むしろ、職業生活をするのに必要な、一般的な知識、技能及び態度を身に付けることをねらいとしています。例えば、作業学習として木工を取り上げ、整理箱や花台を製作したとしても、必ず木工場に勤務することを意図して指導しているわけではありません。このことは、農業や工業に関する作業を行っても同じことです。

作業学習の目標としては、「職業生活及び家庭生活に必要な基礎的、基本的知識、技能を身に付けるとともに、勤労を重んずる態度を養い、進んで社会生活に参加していく能力を培う」ということとなります。

作業学習の共通目標と目標設定に際しての観点は、次のとおりです。

【目標】

- 各作業を通して、勤労の尊さや喜びを感じる。
- 仕事を通して、責任感や協調性を高める。
- 技能の向上を図るとともに、根気強く働く習慣を身に付ける。
- 安全と衛生に留意し、よい品質を保つ努力をする。

【観点】

- 作業態度及び習慣の形成に関するもの
自主性（意欲）、持続力（根気強さ）、責任感、集中力、協調性、注意力、安全性
判断力、経済性、洞察力、確実性（正直さ）、成功感、計画性、成就感、緻密性
礼儀、敏捷性、清潔さ、創造性（工夫）、整理・整頓
- 作業等に必要な知識及び技能の獲得に関するもの
身辺処理、指示理解、約束（規則、規律）の理解と順序、道具の名称・使い方
時間の整理と活用、時間の理解と順序、機械の名称・使い方、数の処理、用語の理解

2 作業種目選定の要件

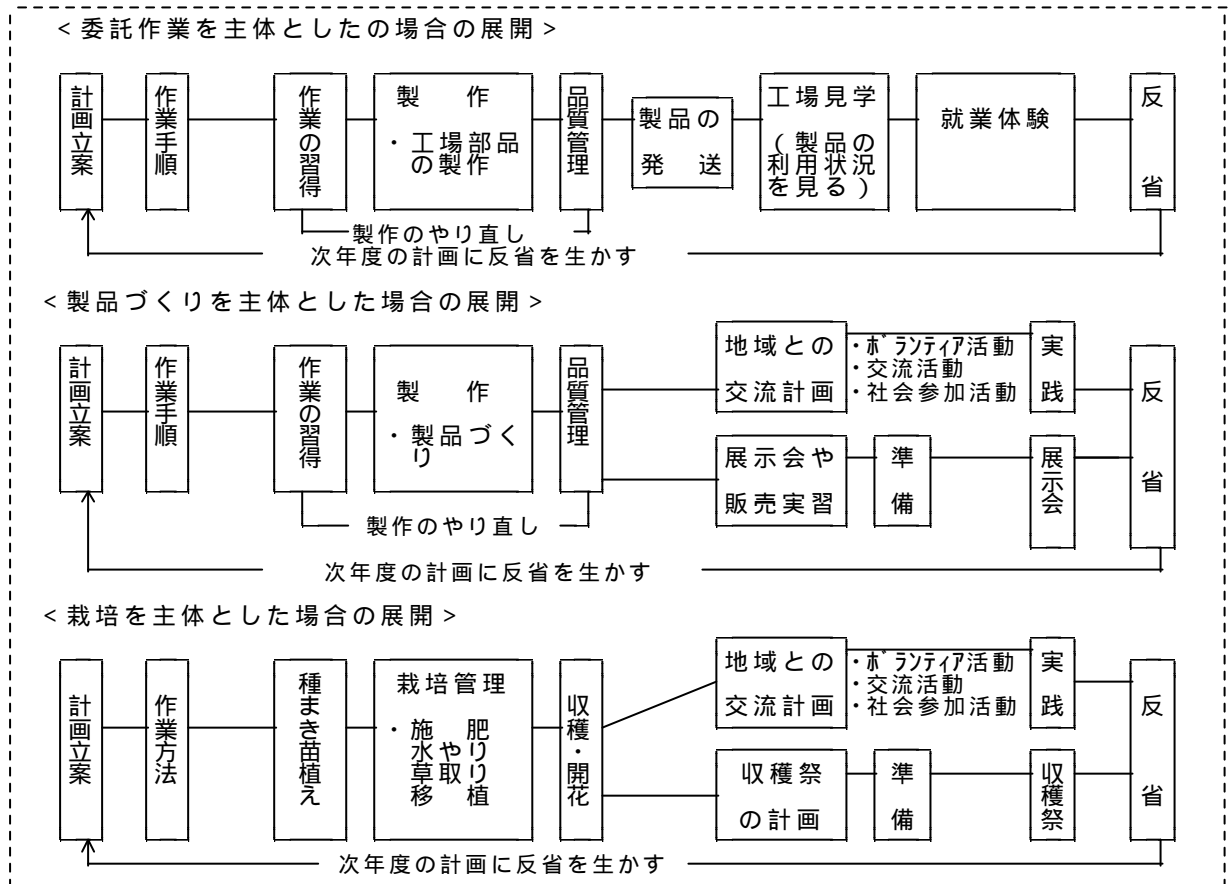
「作業学習の手引き（文部省）」によれば、作業学習は次のような要件を備えることが望ましいとされています。

- 生徒にとって教育的価値の高い作業活動を含んでいること。
- 地域性に立脚したものであること。
- 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- 障害の実態が多様な生徒に応じて取り組める作業活動が用意されていること。
- 共同して進める作業活動が含まれていること。
- 作業活動に参加する喜びや完成の成就感が味わえること。
- 作業内容が安全で健康的であること。
- 原料や材料が入手しやすく、持続性のあるものであること。
- 作業量や作業形態、実習期間など適切な配慮がなされていること。
- 生産から消費への流れが理解されやすいものであること。
- 製品の利用価値が高いものであること。 等

さらに、学級の規模や生徒の人数、能力・特性、教育課程における作業学習の占める割合、施設・設備、地域の産業及び保護者の理解等により作業種目を選定します。

3 年間計画の立案

作業学習の年間計画は、立案から販売や発表会の企画などそれぞれの学級の実態に合わせて作成します。なお、立案に際しては、作業種目に応じて下図の過程を参考にしてしてください。



作業学習では、目標を意識して作業を進めることにより生徒の勤労意欲を培うことが重要です。まず、1年間の作業計画を学級で話し合い、何の目的で作業するのかを明確にします。製品等の製作過程では、目標と出来高や品質を確認するためにチェック表などを利用して生徒自身が評価できるように工夫します。まとめの段階では、展示会や販売実習会などを設け、働いた達成感が得られる場を設定することが大切です。また、就業体験で実際に働くことを体験したり、自分たちの作った製品が活用される場面を見学することも学習のまとめとして効果的です。さらに、作業学習で培った技能を生かして地域のボランティア活動に参加したり、製品を地域社会に活用してもらったりすることも生徒の自己実現を図ることにつながっていきます。将来、生徒たちが地域で生活していくことを考え、作業学習をきっかけにして地域社会への積極的な参加を促すことが大切です。

各教科との関連を図ることも学習効果を高めるために重要です。各教科等で学習したことを作業学習の指導に取り入れたり、作業学習で学習したことを各教科の学習で補完したりすることが大切です。また、「総合的な学習の時間」と関連付けることで作業学習の成果を発揮することが可能です。例えば、環境問題を扱いながらリサイクル製品、環境に優しい製品等を作っていくのもよいでしょう。このように課題をもって学習に取り組みながら作業を行うことで生徒たちの働く意欲も増します。また、作業内容をいくつか組み合わせると製品のつながりも学習できます。例えば、製作した鉢で花の栽培をしたり、牛乳パックの紙を使って名刺や封筒を作ったり、藍やケナフなどを栽培し、それを加工して壁掛けなどの製品にしたりすると学習効果を高めることができますし、環境教育との関連で一層学習が広がります。

作業種目の例を次に示しました。

1 紙すき（しおりづくり）	8 製本（メモ用紙づくり）
2 紙すき（紙皿づくり）	9 紙工（封筒づくり）
3 園芸（さつまいもの栽培）	10 紙工（アンデルセン）
4 園芸（肥料づくり）	11 かご編み（PPバンドを利用したかご）
5 木工（花台づくり）	12 編み物（牛乳パックを利用したアクリルたわし）
6 木工（プランターカバーづくり）	13 染色（絞り染め）
7 印刷（ワープロを活用した名刺印刷）	14 縫製（パッチワーク）

4 作業学習の例

ここでは「紙すき（しおりづくり）」の例を取り上げ、作業学習の一端を紹介します。

(1) 紙すき（しおりづくり）の指導計画

ア 作業内容の概要

牛乳パックを回収し、紙すきをして、しおりを製作する。このしおりは、地域の図書館で返却期日のスタンプを押して、図書貸出しのしおりとして活用される。毎学期、400枚程度を作り、図書館に納入する。しおりの表には、生徒たちの絵やスタンプ、マーブリングの模様を、裏には、「月日までに本を返却してください」と印刷する。

イ 設定の理由

- ・ 作業内容が安全で健康的である。
- ・ 切る、もむ、ちぎる、すく、アイロンがけなど、作業内容が豊富である。
- ・ 原材料が入手しやすいリサイクル品なので、環境教育の一環として意義深い。
- ・ 流れ作業がしやすく、その日のうちに作品が仕上がるので、連帯感や成就感を味わうことができる。
- ・ 地域の図書館で使用されるなど、製品の応用範囲が広く、利用価値も高い。

ウ 作業のねらい

- ・ 紙すきの作業を通して、勤労の尊さや喜びを知る。
- ・ 自分の作品が地域の人々に活用されることを知り、労働の意義と成就感を味わう。
- ・ 手先の器用さや技能の向上、根気強く働く態度を身に付ける。
- ・ 安全に作業する態度を身に付ける。

エ 年間指導計画

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
内容	計画	紙すき技術の習得 ・ 1週間に40枚の生産目標 ・ 100枚を一束にまとめ、生産量を調べる。	品質管理 ・ 不良品の選り出し ・ 製品の納入	生産の向上 ・ 1週間に80枚の生産目標 ・ 100枚を一束にまとめ、生産量を調べる。	品質管理 ・ 不良品の選り出し ・ 製品の納入	反省					

オ 作業工程

作業種目		紙すき（しおりづくり）	事例 1
材料・用具		牛乳パック，ミキサー，ボウル，金網杵，セルロイド板，アイロン，布 はかり 秤	
作業順序		作業内容	
1	牛乳パック切り	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックを水でよく洗い乾かす。 牛乳パックを分解し，4枚に切り取る。 10枚を一束にして輪ゴムで止め，段ボールに詰める。 	
2	ビニールはがし	<ul style="list-style-type: none"> はがし忘れのないように模様のない方に油性ペンで印を付ける。 分解した牛乳パックをなべで煮る。（一晩つけておく） ラミネート加工されているビニールをはがす。 	
3	パルプづくり	<ul style="list-style-type: none"> 細かくちぎる 15gずつ計る。 	
4	紙すき	<ul style="list-style-type: none"> 水500mlと紙15gをミキサーに入れてかくはんする。 糊^{のり}10mlを加えてよくかき混ぜる。 パルプ液をすき杵に均等な厚さになるように，静かに流し込む。 	
5	プレス	<ul style="list-style-type: none"> すいた紙をセルロイド板にはさむ。 10枚程度重ね，圧力を加えていく。 	
6	アイロンがけ	<ul style="list-style-type: none"> 布に挟み，アイロンがけをする。 20枚程度を重ね，プレスをかける。 	
7	印刷・模様付け	<ul style="list-style-type: none"> 紙が乾いたら，表面に印刷をする。 裏面にマーキングや絵，模様などを印刷する。 	
8	切り取り，穴あけ，リボンがけ	<ul style="list-style-type: none"> 紙を縦長に3等分する。 右端にパンチで穴をあける。 リボンを通して縛る。 10枚ごとに間紙を入れ，100枚を束にする。 	

カ 指導上の留意点

- 作業の時間には，作業衣に着替える習慣を身に付けさせる。
- 作業開始時と終了時のあいさつを徹底する。
- 道具を置く場所に名札をはり，道具の名称を覚えて準備や後片付けを円滑にする。
- 汚れる仕事に対する抵抗をなくし，汚れを後で洗い落とす習慣を身に付けさせる。
- 作業工程表を作り，作業の全体の流れを理解して分担作業ができるようにする。

- 出来高表（右図）を作成して，作業の目標と結果が分かるように工夫する。
- 一定期間で作業分担を交代して全体の作業内容が体験できるようにする。
- 協力して作業する場を設定する。
- 指示がなくても見通しをもって作業できるように，分担作業終了ごとに報告させる。
- 作業終了時には感想と反省を発表させ，成就感をもたせる。また，よい点は全員で評価し，次時への意欲を高める。

< 「出来高表」の例 >

9月がんばり表 名前

個数						
	2日	3日	9日	10日	11日	12日

キ 評価 （参考：文部省「作業学習の手引」）

項目		1	2	3	4	5	
態 度	意 欲	どの作業にも手を出さない。	教師に促されて作業をする。	作業はやれるが指示待ちが多い。	作業内容によって進められる。	どの作業も進んでいく。	
	根気・持続	すぐに飽きて作業を中断する。	友達の作業に気を取られる。	集中しなさい。指示は行かぬ。	途中で集中力が途切れる。	最後まで集中できる。	
	誠実・勤勉	始末をきちんとしておかない。	話につられて話中できない。	教師の真面目な態度を真似る。	陰謀や裏切りをする。	仕事をきちんとやる。	
	自主性	いつまでも人に助けを頼む。	すぐ助けを呼ぶ。自分で解決しない。	やれることは自分でやる。	自分だけでやる。	自分で考えようとする。	
	準備・後始末	言われても後始末をしない。	後始末を最後までしない。	所定の場所に片付けられない。	道具を所定の場所に片付ける。	片付けをきちんとする。	
技 能	手切	はさみで厚い紙を切れない。	切った跡がのこぎりに残る。	はさみで線に沿って切る。	紙を動かさず切る。	はさみの刃を全切する。	
	はがす	つめを立てることができない。	—————	つめの先を二つに分ける。	—————	ビールの紙をはがせる。	
	紙をもむ	片手で握ってしわを入れる。	折りに曲げる。しわを入れる。	両手で雑巾を絞る。	両手でしわを絞る。	紙の隅々までしわを入れる。	
	紙をすく	すき棒をねらえない。	すき棒からあしはく。	すき棒を流す。	すき棒を流す。	すき棒を流す。	
知 識	工程の理解	毎回の作業手順が必要である。	作業の慣れが時間がかかる。	作業の手順が理解できる。	作業の手順が理解できる。	作業の手順が理解できる。	
	言 語	読 む	表示に違っている。	—————	箱のラベルをよめる。	—————	細やかなる。
		聞 く	一語一語の指し示す必要がある。	全体指し示す必要がある。	全体指し示す必要がある。	全体指し示す必要がある。	全体指し示す必要がある。
		話 す	簡単な言葉で話せる。	必要な言葉で話せる。	二語三語で話せる。	二語三語で話せる。	二語三語で話せる。
	数 量	数える	並べたりできない。	物と数称が一致しない。	物と数称が一致する。	10・20と数える。	100以上の数を数える。
測 量	はかりを正しく使えない。	指の位置が正確でない。	指の位置が正確でない。	指の位置が正確でない。	指の位置が正確でない。	指の位置が正確でない。	

特殊学級（知的障害）教育課程案



愛知県教育センター

